

事項	ダイズわい化病の発病を軽減するための遅播きの効果		
ねらい	ジャガイモヒゲナガアブラムシが媒介するダイズわい化病は、は種時期を遅らせることにより発病が軽減される。このことから、例年本病が多発する地域・ほ場における本病の防除法として、遅播きが有効な手段となることが明らかとなったので参考に供する。		
指導 参考 内容 容	<p>1 だいたいの種時期とダイズわい化病の発生 だいたいの種時期を遅らせることにより、ダイズわい化ウイルス(SbDV)を保毒するジャガイモヒゲナガアブラムシの飛来盛期が回避され、ダイズわい化病の発病株率が低下する。この効果は、は種時の粒剤施用と同等以上である。 このため、わい化病による減収が見込まれる縮葉やわい化症状を呈する株が概ね25%を越える地域・ほ場では、は種時期を標準(5月20日)より遅らせることは、有効な防除手段と考えられる。</p> <p>2 は種時期の晩限(品種「オクシロメ」の場合) は種時期が遅いほど発病軽減効果は高くなるものの、遅播きによって収量が低下し、わい化病軽減による増収効果が見込めなくなるため、6月上旬を は種晩限とする。</p>		
期待される効果	遅播きは、例年ダイズわい化病が多発する地域・ほ場で減収軽減効果が高く、減農薬安定生産に寄与する。		
利用上の注意事項	品種「オクシロメ」についての成績である。		
担当	青森県畑作園芸試験場 病害虫防除室	対象地域	県下全域
発表文献等	平成11～13年度 青森県畑作園芸試験場成績概要集 平成11～12年度 プロジェクト研究「環境負荷軽減のための病害虫群高度管理技術の開発」推進評価会議資料(農林水産技術会議事務局・農業研究センター)		

【根拠となった主要な試験結果】

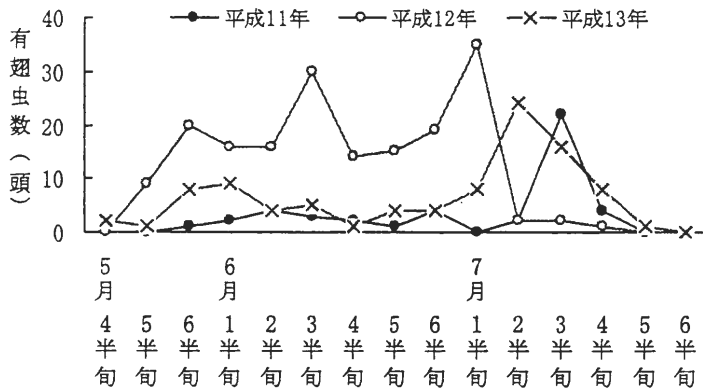


図1 ジャガイモヒゲナガアブラムシ有翅虫の捕獲消長 (平成11~13年 青森畑園試)

(注) 場内16号ほ、黄色水盤

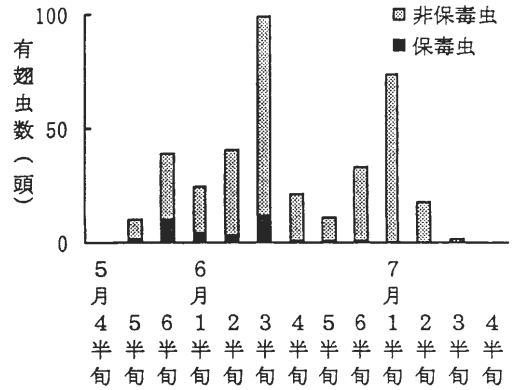


図2 捕獲された有翅虫数と保毒虫飛来の推移 (平成11~13年 青森畑園試)

(注) 場内24号ほ、黄色水盤

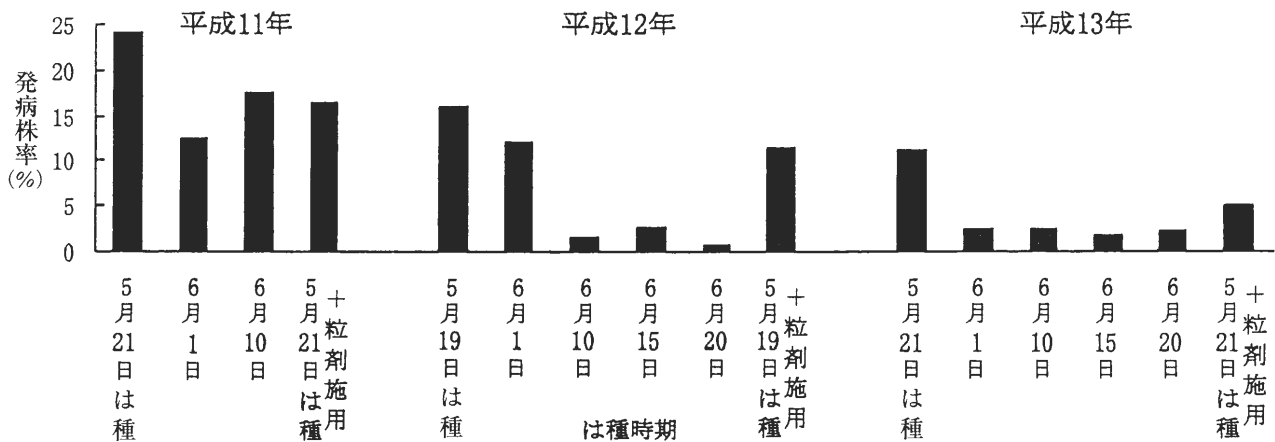


図3 は種期とわい化病発病株率の関係 (平成11~13年 青森畑園試)

(注) ダイシストン粒剤は、4 kg/10aをは種時に作条施用

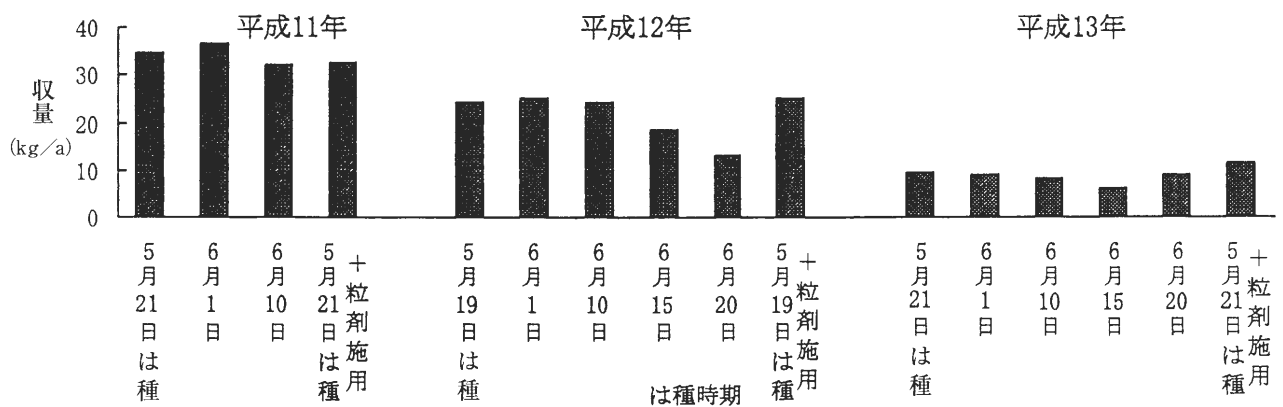


図4 は種期と収量の関係 (平成11~13年 青森畑園試)

(注) ダイシストン粒剤は、4 kg/10aをは種時に作条施用